



ヒイラギナンテンの実がなるのは初夏の頃



ヤツデは冬に咲く数少ない花の一つ

東北の野山は冬ともなれば葉を落とした冬木立となりますが、関東地方以西ではシイヤカシといった常緑広葉樹の濃い緑色の林が広がっています。実は仙台地方はこの二つのタイプの植生の接点で、東北大学植物園では落葉樹が多いものの、シロフカシ、シロタモなどの常緑樹も標高の低い本沢沿いなどで見受けられます。これらは仙台地方の気候に応じた自然植生なのですが、近年、ヤツデ、シロロ、ヒイラギナンテンといった、仙台では公園や庭園などによく植えられる樹木が植物園で目立つようになってきました。それらは、本来の分布地が日本の南部から中国南部、ヒマラヤです。

鳥たちはそれらの木々の実をついばみ、青葉山の森に来て休みます。落ちた糞にその種子が入っていて、芽生えます。植物園の先輩職員に聞いた話ではそれらの芽生えは昔からあったものだが、冬の寒さで枯れていたとのこと。ところが近年の仙台という都市のヒートアイランド現象、そして地球温暖化で、枯れなくなってきたのです。今では花を咲かせ、実がなると、その種子から芽生えが出て既に二世が育っているものもあります。自然の状態では存在し得なかった植物たちが、人間が作った環境下で新たな地に侵入しているのです。植物園はそんな地球温暖化を実感できる場です。ここを訪れて、実感して、温暖化防止に何ができるか、是非考えましょう。

東北大学名誉教授
(東北大学術資源研究センター 名誉教授)

鈴木三男

©東北大学 植物園 URL : <http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/>

この『まなびの杜』は、インターネットでもご覧になれます
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/manabi/>
バックナンバーもご覧になれます

- 『まなびの杜』をご希望の方は各キャンパス(片平、川内、青葉山、星陵、雨宮)の警務員室、附属図書館、総合学術博物館、植物園、病院の待合室などで手に入れることができますので、ご利用ください。
- 無断転載を禁じます。
- 『まなびの杜』は3月、6月、9月、12月の月末に発行する予定です。
- 『まなびの杜』編集委員会委員(五十音順)
伊藤 彰則 大内 孝 加藤 道代 小坂 健 齋藤 忠夫 佐藤 博
柴田 友厚 田邊 いつみ 寺田 直樹 堀井 明 山家 智之 横溝 博
東北大学総務部広報課 谷口 善孝 佐藤 梓
- 『まなびの杜』に対するご意見などは、手紙、ファクシミリ、電子メールでお寄せください。
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
TEL 022-217-4977 FAX 022-217-4818
Eメール koho@bureau.tohoku.ac.jp

編 | 集 | 後 | 記 |

2012年最後の『まなびの杜』をお届けします。今号も、様々な分野の先生方がご寄稿下さいました。研究領域は違っていても、大学における全てのチャレンジは、「それは何?」「なぜ?どうして?」「どのように?」という「問い」から始まっています。「私たちはどのようにして文字の読み書きを当たり前に行えるようになったのか(「特集」)」「どうしたら面白いゲームを作ることができるのか(「地域と大学」)」という著者の問いのように、それまで当然だと思っていたことに一つの問いを向けてみると、何気ない日常の見え方が変わるかもしれません。また、そうした「問い」の成果を、地域あるいは次世代に向けて伝える活動も報告されました(「大学教育の潮流」、「地域と大学」)。「大学で学んだ『なぜ』を持ち続ける姿勢が、社会人としての原動力」と寄せて下さったOBの方の言葉が、力強く響いてきます(「OBからのメッセージ」)。
東日本大震災から2回目の冬がやってきます。どうか温かくしてお過ごし下さい。2013年が皆様にとって穏やかな年となりますように。

『まなびの杜』編集委員会委員
教育学研究科 教授 加藤 道代



東北大学

まなびの杜

平成24年12月31日発行
発行人:東北大学『まなびの杜』編集委員会委員長 齋藤 忠夫
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学総務部広報課 TEL.022-217-4977 FAX.022-217-4818

※版權は国立大学法人東北大学が所有しています。※無断転載を禁じます。※この用紙は、再生紙を使用しています。